

富山県福光町

**徳成Ⅱ遺跡Ⅲ**

2003年3月

福光町教育委員会

## 序

福光町北東部に位置する北山田南部地区は、山田川左岸の河岸段丘上に位置します。県営ほ場整備事業に伴い調査が行われ、縄文時代から中世までの様々な遺跡が発見され、多くの歴史遺産が埋蔵されていることがわかりました。

今回の調査は、県営ほ場整備事業（担い手育成型）の実施に伴う徳成Ⅱ遺跡の発掘調査です。当地区におけるほ場整備事業関連の遺跡発掘調査は平成10年度の試掘調査から始まりました。遺跡の大半は盛土により保存し、用排水路用地及び一部の水田削平部分について本調査を実施してきました。今年度調査では、古代の溝、柵列、中世の掘立柱建物跡などを確認しました。また、須恵器、土師器、中世土師器、珠洲、白磁などの古代、中世の遺物が多く出土しました。本書は、その調査結果をまとめたものです。郷土の歴史解明や学術研究等に活用していただければ幸いです。

この調査の実施にあたり、福光町シルバー人材センター・富山県農林水産部・ほ場整備事業北山田南部地区委員会をはじめ、地元住民の方々に多大なご協力を賜りましたことに対し、深く感謝するものであります。

平成15年3月

教育長 石崎栄一

## 例　　言

- 1 本書は、県営ほ場整備事業（担い手育成型）北山田南部地区に伴う富山県福光町徳成Ⅱ遺跡の発掘調査概要である。  
調査は、平成14年6月17日から同年8月30日までである。調査面積は、1,515m<sup>2</sup>である。
- 2 調査は、富山県農林水産部の委託を受け、福光町教育委員会が実施した。地元負担金については、福光町教育委員会が国庫補助金・県費補助金を受けた。
- 3 調査事務局は福光町教育委員会生涯学習課におき、指導文化係長石黒久尚、同係主事佐藤聖子が調査事務を担当し、生涯学習課長加藤信行が総括した。調査及び本書の執筆は、佐藤、嘱託調査員西村倫子が行った。
- 4 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々の協力・助言があった。記して謝意を表する。  
太嶋 勇・南保久夫・林 敏三・山田政寛・山村明夫（敬称略・五十音順）
- 5 本書で使用した方位は真北である。土層の観察には、小出正忠・竹原秀雄編著1967『新版標準土色帖』日本色研事業 株式会社を用いた。
- 6 調査参加者は次のとおりである。  
井口富士雄・井口義雄・高松勲・林長敏・溝口外雄・溝口日出夫・山田賛庄・井口鶴子・  
大井川桂子・大島笑子・川島芳江・大門ソト・水口浜子・溝口秋子・山田きみ子  
西川和美（現地調査補助及び遺物整理作業）

## 目　　次

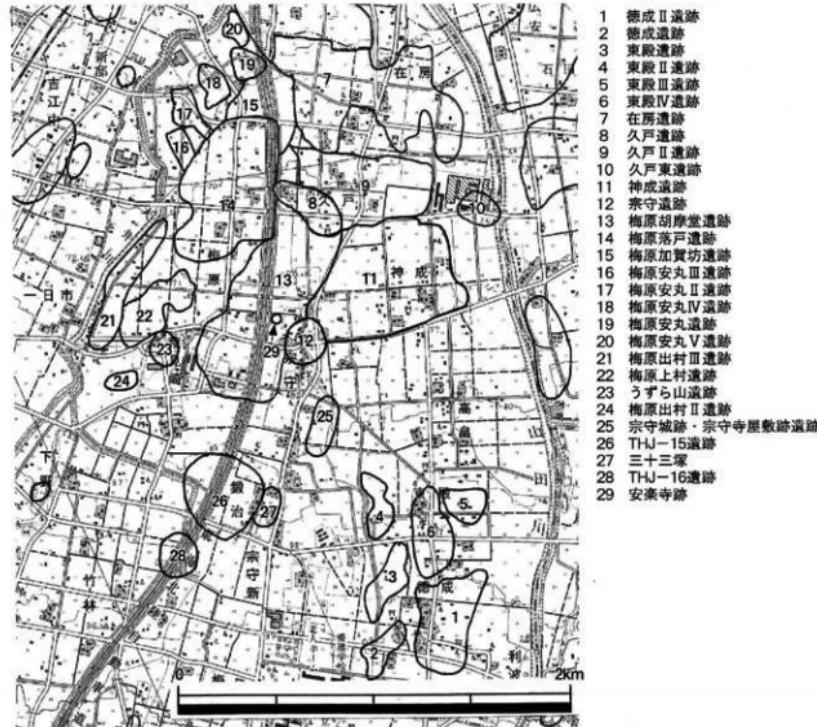
|                 |   |                        |    |
|-----------------|---|------------------------|----|
| I 位置と環境         | 1 | 第5図 徳成Ⅱ遺跡3地区・遺構配置図(1)… | 9  |
| 第1図 位置と周辺の遺跡    | 1 | 第6図 徳成Ⅱ遺跡3地区・遺構配置図(2)… | 11 |
| II 調査に至る経過      | 2 | 第7図 3地区の遺構(1)…         | 13 |
| 第1表 調査経過        | 2 | 第8図 3地区の遺構(2)…         | 15 |
| 第2表 遺跡の梗概       | 2 | 第9図 3地区の遺構(3)…         | 16 |
| 第2図 遺跡範囲と調査区位置図 | 3 | 第10図 出土遺物(1)…          | 17 |
| III 調査の概要       | 4 | 第11図 出土遺物(2)…          | 18 |
| 1. 調査の経過        | 4 | 図版1 検出遺構(1)            |    |
| 2. 調査の方法        | 4 | 図版2 検出遺構(2)            |    |
| 3. 徳成Ⅱ遺跡3地区の梗概  | 4 | 図版3 検出遺物(3)            |    |
| 第3図 基本土層図       | 4 | 図版4 検出遺物(4)            |    |
| 第4図 調査区割図       | 5 | 図版5 徳成Ⅱ遺跡の遺物(1)        |    |
| IV まとめ          | 7 | 図版6 徳成Ⅱ遺跡の遺物(2)        |    |
| 参考文献            | 8 | 報告書抄録                  |    |

## I 位置と環境

富山県福光町は、石川県との県境をなす富山県の南西部端に位置する。町の西側から南側にかけては、養老三年（719年）、泰澄大師によって開山されたといわれる靈峰医王山をはじめとするなだらかな山脈が連なる。上平村と接する南側に位置する大門山に源を発する小矢部川が、町の中心部を南北に貫流し、その東を流れる山田川とともに、町の東北部から北に向かって広がる砺波平野を形成している。

徳成Ⅱ遺跡は、小矢部川の支流である山田川左岸、河岸段丘上に位置する。標高約92.93mを測る当遺跡の周囲には、東殿遺跡、東殿Ⅱ遺跡、東殿Ⅲ遺跡、東殿Ⅳ遺跡が存在する。縄文時代の遺跡には、徳成遺跡（中・後期）をはじめ、東殿遺跡で石槍の出土があるほか、試掘調査によって東殿Ⅲ遺跡からは後期後半にあたる焼土、石組炉が確認されている。さらにその周辺には、北側にうずら山遺跡（前期）、宗守遺跡（中期）、西側には竹林Ⅰ遺跡、竹林Ⅱ遺跡（中・後期）、東側山田川右岸には縄文晩期井口式の指標となる井口遺跡が存在する。

弥生、古墳時代には、徳成Ⅱ遺跡試掘調査より竪穴住居と考えられる落込みと高杯が出土している。北側の梅原地区からは、梅原胡摩堂遺跡より中期の土器・菅玉・石鎌が出土し、梅原安丸Ⅲ遺跡では、古墳



第1図 位置と周辺の遺跡 (S=1:25,000)

時代の堅穴住跡1棟を検出している。古代では、在房遺跡の本調査により掘立柱建物群が確認されている。また文献資料によると、福光町の一部が磯波川上郷に含まれていたとされている。平安時代には川上村と呼ばれ官倉がおかれていた事が知られる。

## II 調査に至る経過

平成8年（1996年）、徳成・東殿・利波河の3地区を含む北山田南部地区において、県営ほ場整備事業（担い手育成型）実施の計画が策定された。この事業は、北山田南部地区95haを対象とし、平成9年度より14年を事業実施年とあてていた。しかし、対象地内には周知の遺跡として縄文時代中・後期の徳成遺跡、縄文時代の石槍が出土している東殿遺跡が存在していたこと、同じく河岸段丘上に位置する北側の梅原地区では、縄文時代から中世まで多数の遺跡が確認されていたことから、対象地区内にも遺跡が存在することが予想された。のことから、町教育委員会では、県埋蔵文化財センターより調査員の派遣を受け、平成8年12月に分布調査を実施したところ、遺物の散布を確認し、対象地区内に新たに4つの遺跡が存在する事がわかった。

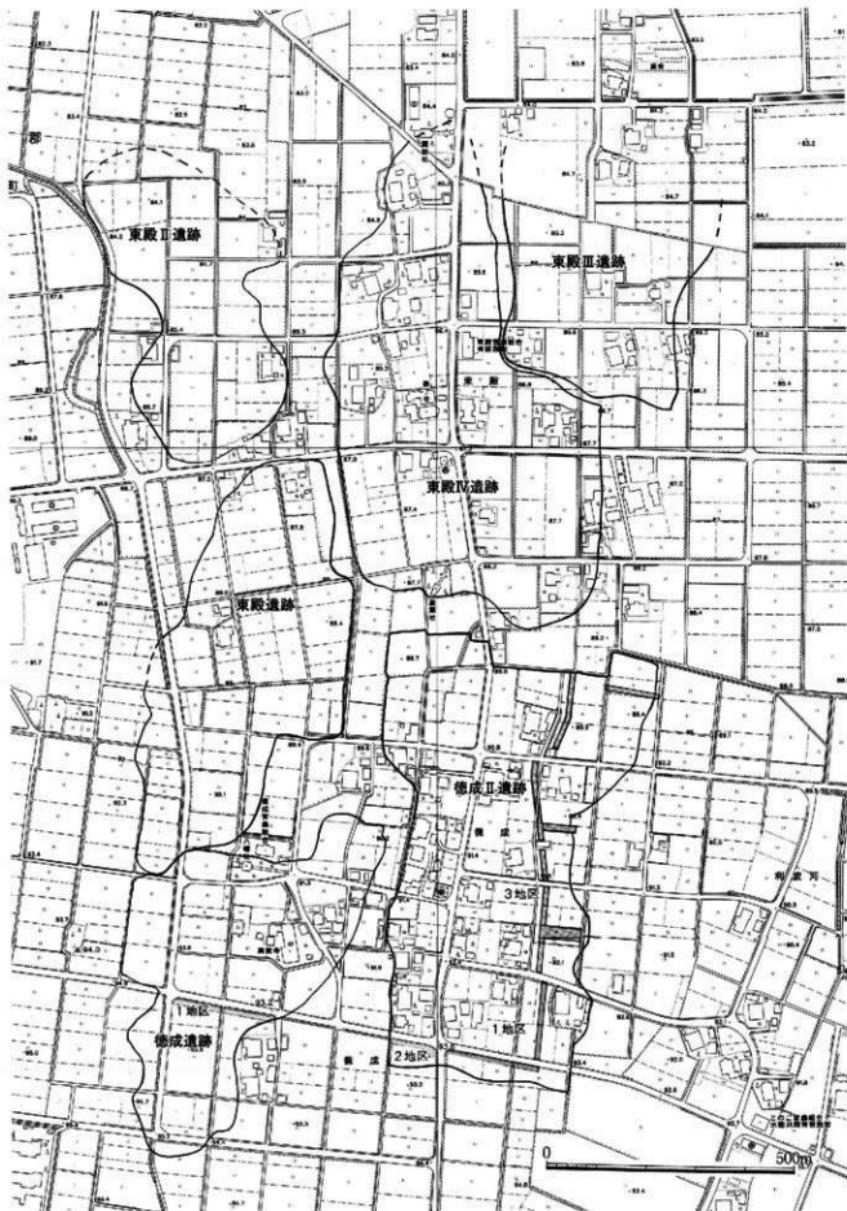
町教育委員会では、遺物の散布が認められた部分において、平成10年から国庫補助金をうけて試掘調査を実施している。バックフォウによって、田に何箇所か筋掘りをし、地山が検出できるまで掘り下げ、遺物包含層及び遺構の有無、遺跡の遺存高を標高で確認するといった作業を行ったところ、現在まで調査が終了した箇所の遺跡の遺存状況は良好であった。このことから、遺跡の保護措置について、県農地林務部・県教育委員会・元土地改良区と協議し、遺跡が存在する箇所については、ほ場整備工事施工に際しては盛土を行う事で水田下に保存し、一部の面工事、農道建設、用排水路着工部分について本調査を実施する事となった。14年度本調査は、田面調整箇所、排水路着工箇所である。これまでの調査面積、遺跡の内容は次のとおりである。

第1表 調査経過

| 年<br>度 | 試掘調査対象面積 | 調査対象遺跡           | 本調査面積               | 調査対象遺跡 |
|--------|----------|------------------|---------------------|--------|
| 平成10年度 | 3.69ha   | 徳成Ⅱ遺跡            | —                   | —      |
|        | 6.28ha   |                  | —                   | —      |
| 平成11年度 | 8.13ha   | 徳成Ⅱ遺跡            | —                   | —      |
|        | 5.77ha   | 東殿Ⅲ遺跡            | —                   | —      |
|        | 1.27ha   | 東殿Ⅳ遺跡            | —                   | —      |
| 平成12年度 | 2.00ha   | 徳成遺跡             | 1,000m <sup>2</sup> | 徳成Ⅱ遺跡  |
| 平成13年度 |          | 東殿・東殿Ⅱ・<br>東殿Ⅳ遺跡 | 500m <sup>2</sup>   | 徳成Ⅱ遺跡  |
| 平成14年度 | 3.00ha   | 東殿Ⅱ・東殿Ⅲ遺跡        | 400m <sup>2</sup>   | 徳成Ⅱ遺跡  |
|        |          |                  | 1,515m <sup>2</sup> | 徳成Ⅱ遺跡  |

第2表 遺跡の概要（No.は第1図の遺跡番号と対応する）

| NO. | 遺跡名   | 所属時代                              | 検出遺構                       | 出土遺物                             |
|-----|-------|-----------------------------------|----------------------------|----------------------------------|
| 1   | 徳成Ⅱ遺跡 | 古墳時代・縄文・縄<br>文後期後半・古代・<br>中世・近世以降 | 土坑（住居？）・溝・ピット              | 土師器・須恵器・中世土師器・青磁・越前・<br>陶磁器      |
| 2   | 徳成遺跡  | 縄文中期～後期・古<br>代・中世・近世以降            | 土坑・溝・ピット                   | 縄文土器・須恵器・中世土師器・<br>陶磁器           |
| 3   | 東殿遺跡  | 縄文・中世                             | 土坑・溝・ピット                   | 珠洲・中世土師器・灘戸                      |
| 4   | 東殿Ⅱ遺跡 | 古代・中世・近代                          | 土坑・溝・ピット                   | 土師器・須恵器・珠洲・中世土師器                 |
| 5   | 東殿Ⅲ遺跡 | 縄文後期後半・古代・<br>中世・近代・近世以<br>降      | 土坑・溝・ピット・溝（旧用<br>水）・焼土塊・か跡 | 縄文土器・土師器・須恵器・中世土師器・<br>珠洲・越前・陶磁器 |
| 6   | 東殿Ⅳ遺跡 | 古代・中世・近代                          | 七坑・溝・ピット・溝（旧用<br>水）        | 土師器・須恵器・中世土師器・銅貨                 |



第2図 遺跡範囲と調査区位置図 (S=1:5,000)

### III 調査の概要

#### 1. 調査の経過

14年度本発掘調査は、遺跡中央部分を南北方向に貫く、排水路新規着工工事に伴う975m<sup>2</sup>部分、その排水路に東側で隣接する田面調整工事に伴う部分が2ヶ所、540m<sup>2</sup>部分である。

#### 2. 調査の方法

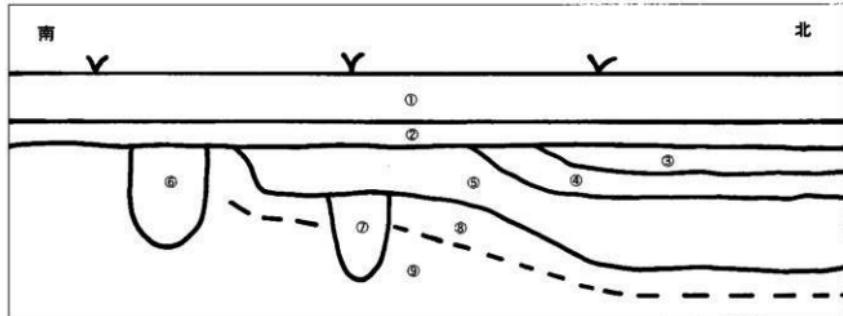
調査は、まず重機で耕土などの無遺物層の除去を行い、その後調査区に合わせておおよその東西南北の方に向に合わせ、基準杭を10mごとに設置し、調査区割を行った。区割は、南から北にX軸、西から東にY軸とし、2mを一区画としてアラビア数字でその位置を示した。

包含層掘削・遺構検出・遺構掘削等は調査員及び作業員が行い、土層図・出土状況図の作成は調査員及び調査補助員が担当し、遺構平面図の作成は、ラジコンヘリコプターにより撮影した写真から図化した。

#### 3. 德成II遺跡3地区の概要

##### (1) 地形と層序 (第3・4図)

調査区は、12年度調査区の延長南北に300mにのびる。3地区が存在する周辺の地形は、南から北に、西から東に緩やかに傾斜している。山川左岸の河岸段丘上に位置し、調査区の東端は段丘崖の突端である。標高は、南側の高い箇所で91.82m、北側の低い箇所で89.25mを測る。地表から地山面までの深さは約20cm～80cmであり、箇所にもよるがその間は大きく5層に分かれ。1層は現代の耕作土、2層は灰褐色土で盛土、3層は黒褐色粘質土で中世期の遺物を多く含む中世以降の搅乱層である。4層が無遺物層であり、5層が黒色粘質土の遺物包含層である。5層と地山の間には、茶褐色の漸移層(⑧)が存在する。地山土は黄褐色粘質土(⑨)である。遺構には2時期があり、5層の遺物包含層より切り込んでいる中世期の遺構(⑦)、かつて存在した遺物包含層、及び遺構の上面が削平され、2層の下面から切りこんでいる古代の遺構(⑥)がある。遺物包含層、遺構とも保存状況のよい箇所もあるが、地山までも削平され、耕土直下で黄褐色砂礫の地山土が露出している箇所も見受けられる。また、耕土直下で上面を削平された遺構を検出する箇所も存在する。徳成地区では昭和30年代には場整備がなされており、その際かもしくはそれ以前の土木工事によるものと考えられる。



第3図 基本土層図



第4図 調査区割図 (S=1:2,000)

## ② 遺構（第5～9図・図版1～4）

### 古代の遺構・S D01

X157、Y33～60に位置する。北西から南東に向かって、まっすぐ伸びる流路である。Y44から東側、溝の終了点までは、近代以降の搅乱を所々うけている。溝の幅は平均60cmであり、搅乱をうけている箇所では1mまで広がっている。また、堀方からの深さは約20cmであり、底面は平らで方の立ち上がりは急である。搅乱をうけている東側では深さは浅くなり、遺構の立ち上がりも曖昧なものとなっている。埋土は黒褐色土が主であり、溝の底面近くでは砂質となる。西側では、やや砂質の暗灰黄色土に遺構が切り込んでおり、東側では暗灰黄色砂礫層に切り込んでいる。出土遺物には、須恵器・杯蓋、杯、土師器などがある。この溝の南側、約2m部分には柱列と考えられるピット列S A01がある。このS A01は、S D01にはほぼ平行した箇所に位置していることから、S D01は掘立柱建物か柵列と考えられるS A01に伴う区画溝とみられる。

### SA01

X154、Y34～38に位置する。30cm前後のほぼ円形の柱穴が約2mおきに東西方向に伸び、5基確認できる。前述のとおり、東西軸はS D01とほぼ平行である。埋土は、黒色土に黄褐色土が混じり、底面は丸い。土層の堆積状況からは、存在していたであろう柱の規模は確認できなかった。南側約20～30cmで調査区壁となるため、柵列なのか掘立柱建物の一部となるかは不明である。

### 中世の遺構・SB01、02、03

田面調整箇所であるX73～76、Y7.5～14付近に位置する。調査区の南北幅が約6mであることから、どの建物もそれぞれ調査区外の南北へ伸びており、全容はつかめなかった。

S B01は、東西4間×南北3間以上の総柱建物である。柱穴相互の間隔は、約2m50cmである。柱穴の堀方は直径約40～50cmの梢円形を呈している。埋土は、黒褐色土に地山土が少量混じる。遺構上面は削平された痕跡がなく、黄褐色土の地山を検出した面が遺構検出面となっている。柱穴の深さは約30～70cmであり、底面は比較的の平らである。柱根は残存していないものの、土層の堆積状況より幅10cm～20cmの柱の抜き取り痕が確認できる。出土遺物には、中世土師器、白磁碗がある。

S B02は、東西4間×南北3間以上の規模である。柱穴相互の間隔は、約2m～2m30cmとS B01と比べて若干狭い。堀方は直径約30～50cmの方形に近いかたちであり、これもS B01よりやや小さい。埋土は黒色土に地山土、炭、鉄分が少量混じる。柱穴の深さは約30cm～70cmであるが、S B01のように柱の抜き取り痕は明瞭ではない。確認できるもので、幅約15～25cmとなる。出土遺物には、中世土師器がある。

S B03は、東西2間×南北4間以上の総柱建物である。柱穴の堀方直径は、S B01.02と比べると縮小し、約25cm前後であり、深さは約40cm～60cmを測る。柱の抜き取り痕は、幅15cm～20cmを測る。柱穴の間隔は、S B01、02より広く、2m50cm～2m70cmとなる。埋土は、黒褐色土に地山土、鉄分が少量混じる。

この建物3棟の時期については、遺構検出面がまったく同じ地山検出面であったことから、時期差にひらきはないと考えられるが、切り合いもなく出土遺物から考慮しても、新旧は不明である。

### SA02

X118～121、Y10～12に位置する。直径約30cmの円形の柱穴が、南西から東北方向に3基並んでいる。深さは、10～20cmと非常に浅い。S A02近辺は、旧は場整備の影響か大きく削平を受けており、遺物包含層は残存せず、検出した柱穴もおそらくは実際の検出面より20～30cmは削平されているとみられる。埋土は黒褐色粘質土である。

### SA03

X67～74、Y7、8に位置する。ほぼ南北方向に沿って、柱穴が5基存在する。柱穴の堀方は長辺50cm、短辺30cmの長方形を呈している。深さは、40cm～80cmを測る。地山検出面が遺構検出面であり、柱穴の遺存状況は良好であった。20cm～30cmの柱抜き取り痕が確認できた。柱穴相互の間隔は2m50cmから3mである。埋土は、黒褐色粘質土に地山土・炭・鉄分が混じる。SA03は、前述のSB01、02、03の南西に近接し、建物の軸方向も類似していることから、柵列ではなく掘立柱建物の一部ではないかと考えられる。出土遺物には、中世土師器がある。

### S K01

X123、Y9に位置する。長辺1m40cm×短辺90cm、深さ30cmの長方形を呈している。東側で、ピットに切られている。埋土は黒色粘質土で地山土が少量混じる。出土遺物には、中世土師器がある。

その他の遺構

X47～55付近では、耕土直下で地山が露出しており、地山までも削平されている箇所もみうけられる。この箇所において、地山面で遺構を検出できなかったものの、調査区標にて竪穴住居と考えられる落ち込みの底辺部分を確認した。平成11年度の試掘調査においても、落ち込みと遺物の出土を確認しており、今回確認した落ち込みはその広がりの延長である。出土遺物には、古墳土師器・高坏・甕がある。

### (3) 遺物（第10・11図・図版5・6）

1は白磁・椀である。2、3は中世土師器。4は中世土師器底部である。これらはSB01などの掘立柱建物跡から出土している。5、6は縄文土器深鉢の口縁部である。7は須恵器杯蓋、8は須恵器杯である。9～14は中世土師器である。15は中世土師器椀の底部である。

16、17、18は縄文土器である。19～22は古墳時代の遺物である。19は高杯、20は甕、22が高杯脚の一部である。

21～27は須恵器である。21、23が杯、22が杯蓋のつまみ部分、24が壺の底部、25は高台杯、26は壺の口縁部である。28は土師器椀の底部である。

29～42は中世土師器皿である。43は侏洲焼・甕の口縁部、46は瀬戸美濃天目茶碗の口縁部、47は白磁椀である。

## IV まとめ

1. 今回の調査対象地区は南北に長く遺跡を縦断するように設置したことから、箇所によって層序の違いが明白となった。X43から南側については、耕土直下で地山面を検出した箇所がほとんどであり、地山面までは削平されてはいないものの、近代の遺物出土以外に、遺構、遺物とも近世以前のものは確認されなかった。
2. X47～55近辺では、やはり耕土直下で地山面を検出したものの、古墳時代の竪穴住居らしき落ち込みや土師器甕、高坏などの遺物を確認した。ただし、この箇所以外に同時期の遺構を確認した箇所は今回の本調査及び以前の本調査、試掘調査でも確認していない。ほ揚整備等により削平を受けた箇所も多いことから、集落としての広がりを現段階で遺跡内で確認するのは困難と考えられる。
3. X67～72では、中世掘立柱建物を3棟確認した。また柵列としている柱穴列も、掘立柱建物の一部である可能性が高い。調査区外に建物が伸びていることからも、近辺には未確認の掘立柱建物が何棟か

存在するものと考えられる。また、S B01の柱穴からは白磁碗の破片が出土していることから、梅原胡摩堂、梅原落戸遺跡と同様に舟運を利用した物資の搬入、搬出がされていたのではないだろうか。

4. X72～85付近は、遺物包含層は遺存していたものの、遺構が極端に少なくなり、また遺物の出土も少ないものであった。特に削平を受けた跡もないことから、前述の掘立柱建物群は北側には伸びていなかったことが考えられる。

5. X95～130は、削平を受けている箇所が多く、特にX95～105の間では地山さえも削平されていたようであり、遺構の数も少なかった。X115～130では、柵列、土坑などいくつかの遺構を検出したが、耕土直下で地山を確認しておりまた遺構の切り込み具合から、遺構の上面部分も削平されていたことがわかる。埋土から、中世期の遺構ではないかと考えられる。

6. X130から北側では、柵列やピットをいくつか確認した。削平はされておらず、旧の地形では谷部分にあたるようであり、遺物包含層である黒褐色土が厚みを増して堆積していた。地山検出面が水分を多く含んでおり、包含層からの遺物出土は少なく、遺構も検出されなかった。また、遺物包含層の上層に中世の遺物を比較的多く含む土層が存在した。中世以降で安定した地盤を確保するため、土盛りを行ったものとみられる。

7. X154～157、Y32～60では、古代の溝、掘立柱建物の一部と考えられる柵列、ピットを確認した。溝は区画を成していたようであり、柵列と平行して位置する。調査区が遺跡の北端にあたることから、未調査の南側に古代の集落が存在する可能性もある。

8. 出土遺物には、縄文土器も数点確認したが、遺構、遺物包含層は未確認である。以前からの試掘調査、本調査の結果から考えても、縄文時代の生活基盤が遺存している可能性は低い。

**参考文献** 福光町教育委員会1980『富山県福光町竹林I 遺跡緊急発掘調査概要』

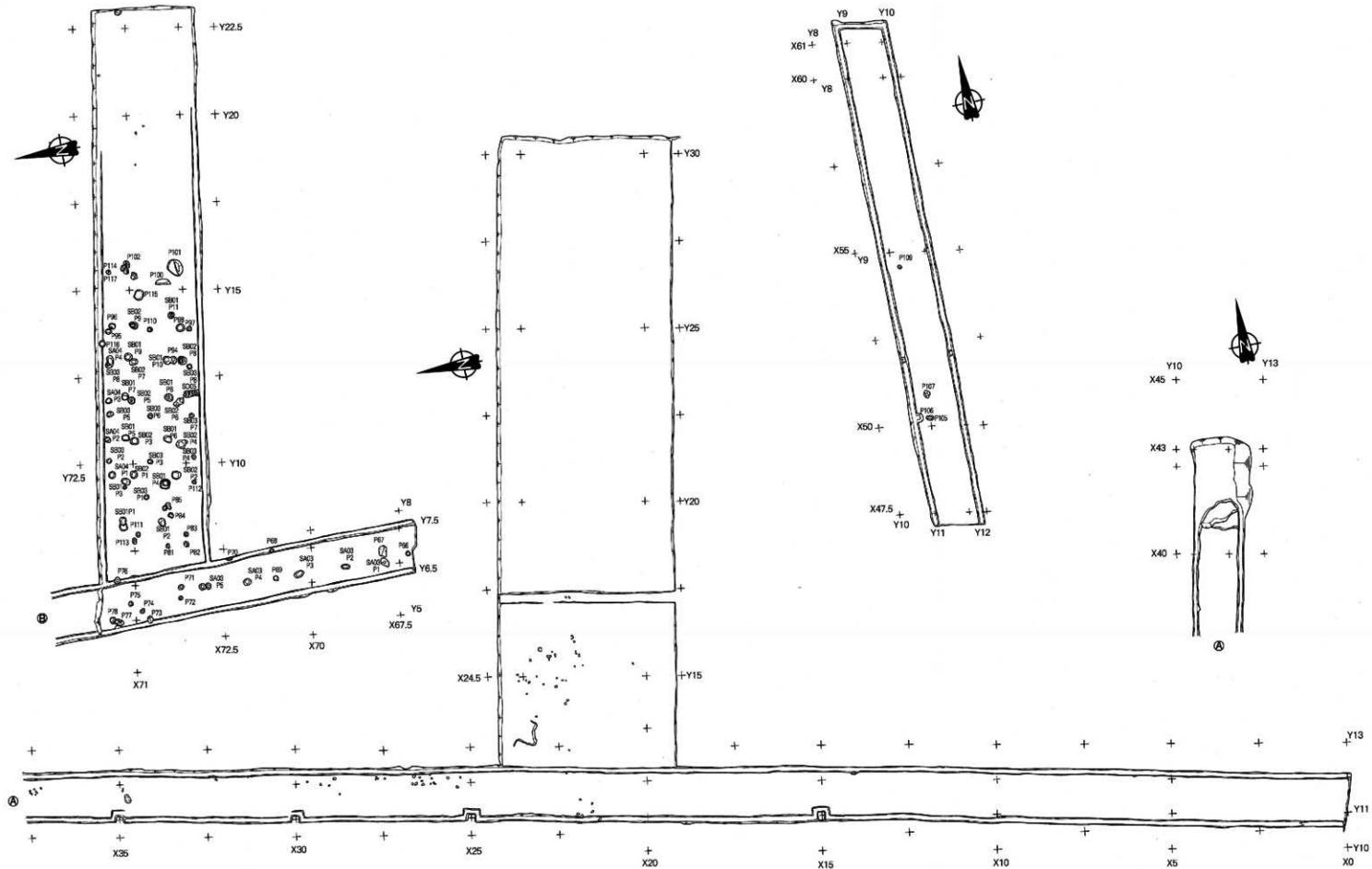
福光町教育委員会1991『富山県福光町うずら山遺跡緊急発掘調査概要』

富山県埋蔵文化財センター 1991『富山県富山市南中田D遺跡発掘調査報告書』

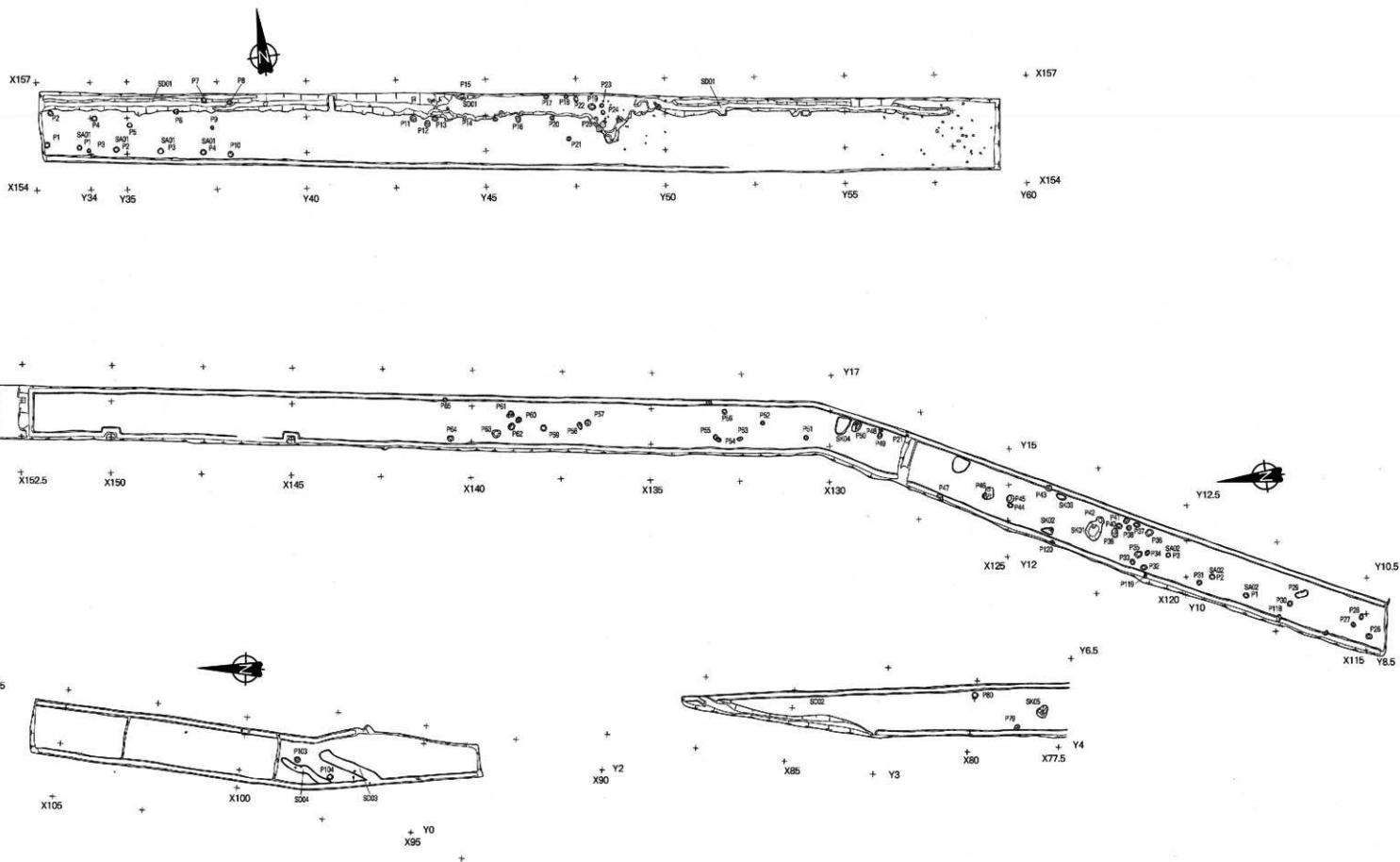
富山県文化振興財団1994『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺構編）』

富山県文化振興財団1996『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）』

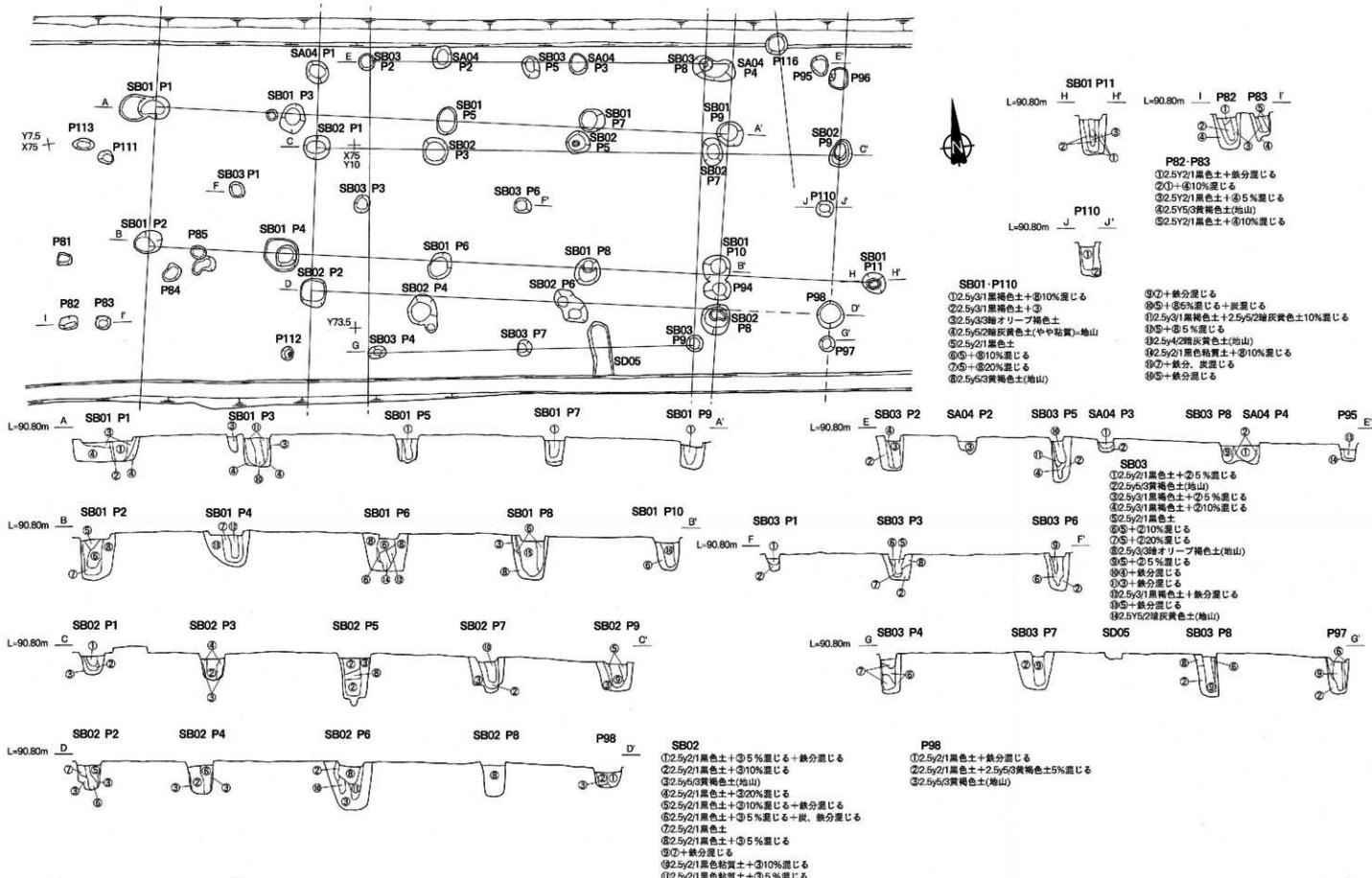
福光町教育委員会2001『富山県福光町徳成II遺跡I』



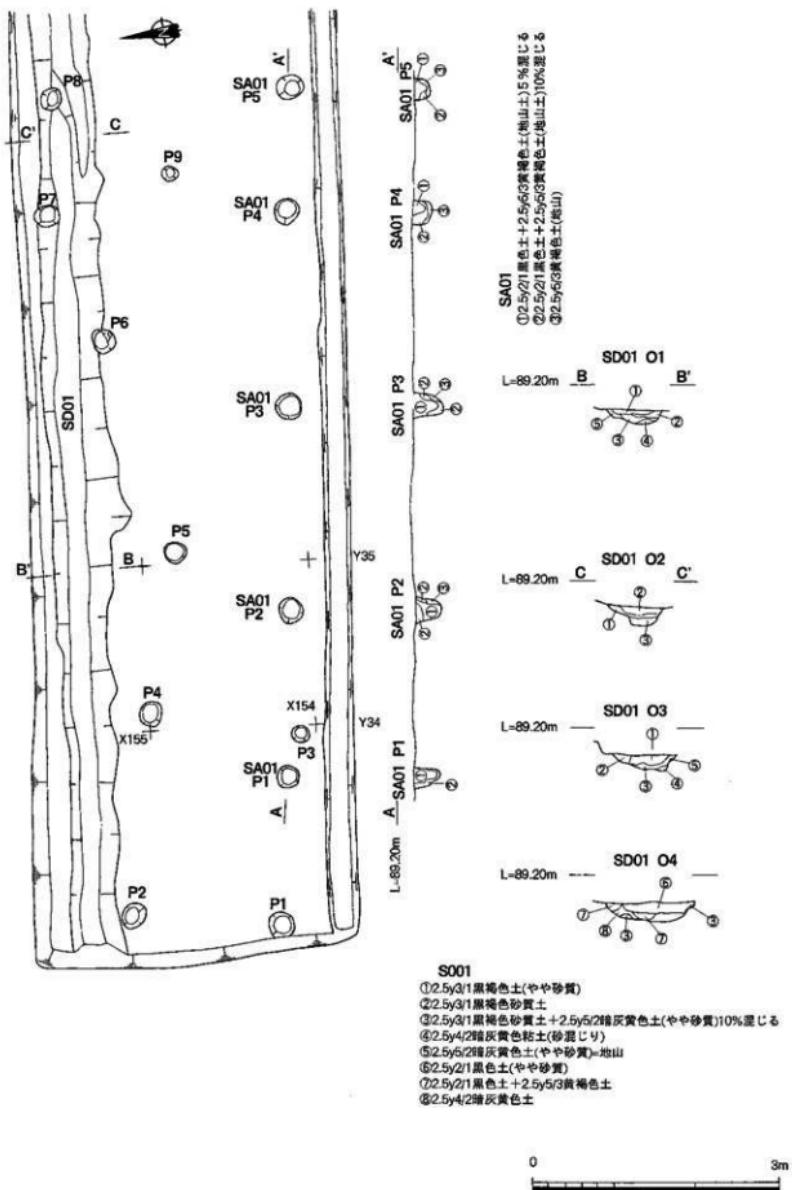
第5図 德成II遺跡3地区・造構配置図(1) (S=1:200)



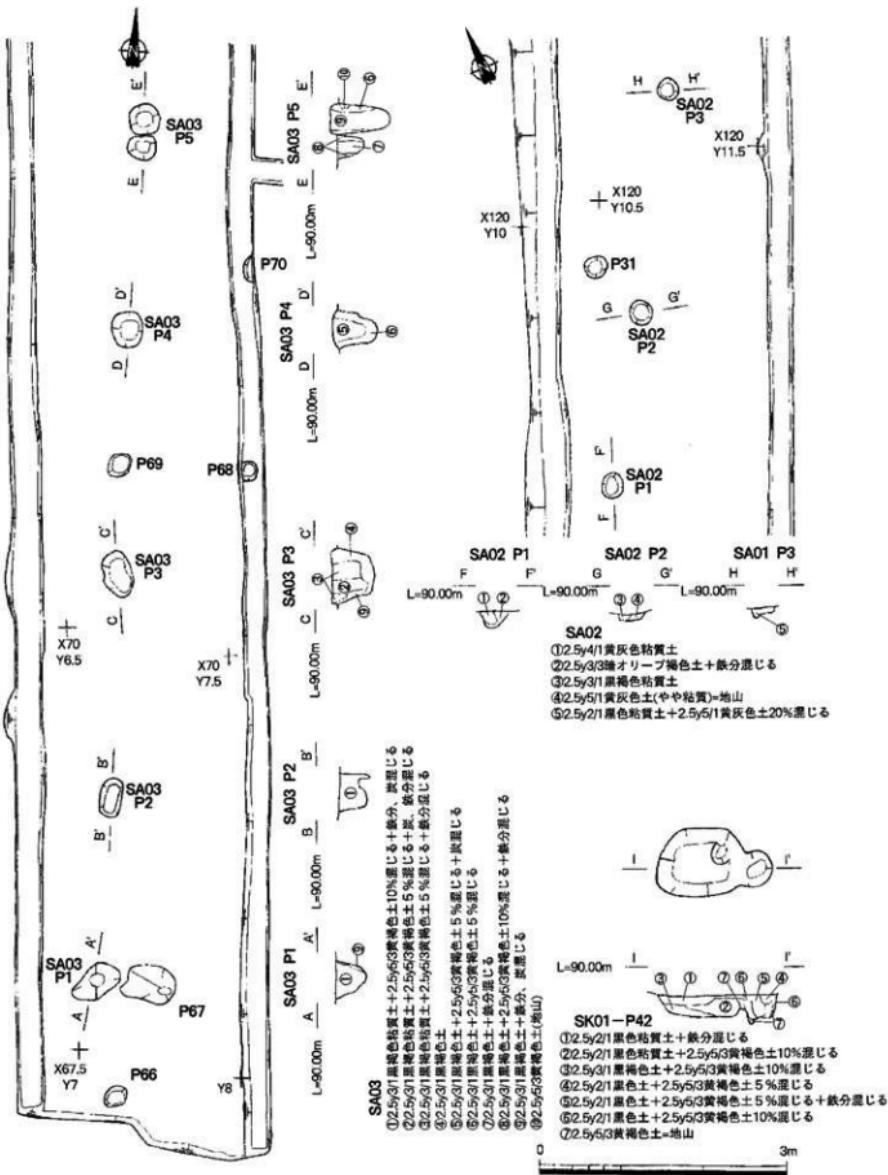
第6図 德成II遺跡3地区・造構配置図(2) (S=1:200)



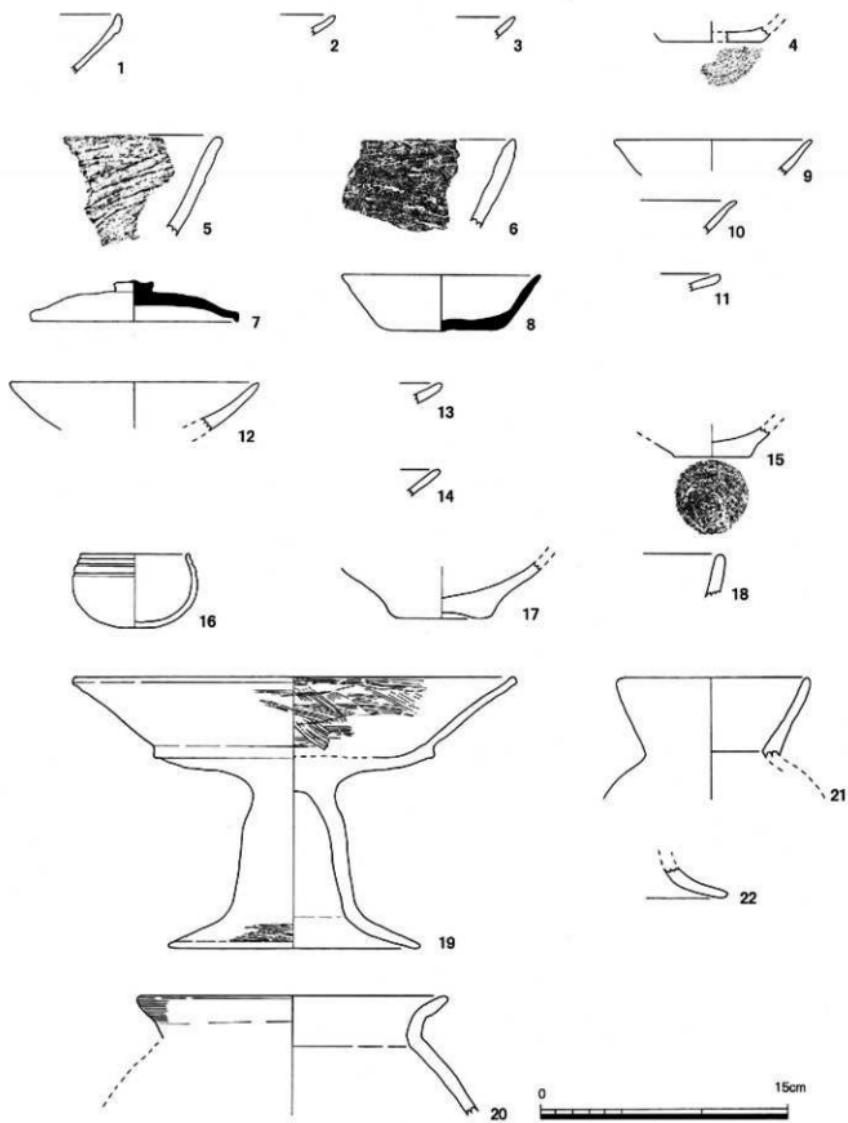
第7図 3地区の地縫(1)



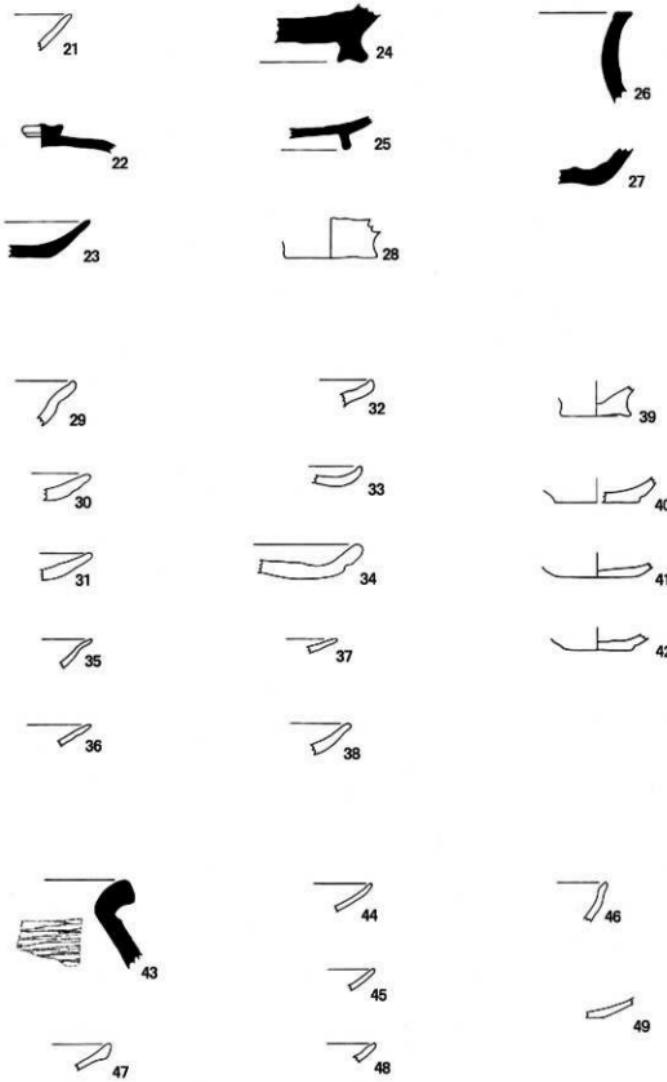
第8図 3地区の造構(2) (S = 1 : 60)



第9図 3地区の造構(3) (S=1:60)



第10図 出土遺物(1) (S=1:3)



第11図 出土遺物(2) (S=1:3)



図版1 検出遺構(1)

- ①調査区遠景(南から)
- ②X0～X45、Y10～Y30部分(南から)
- ③X45～X62、Y8～Y12部分(南から)



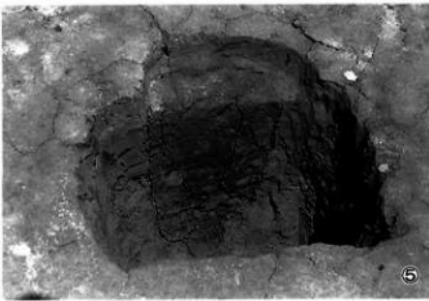
①



②



③



⑤



④



⑥

図版2 検出遺構(2)

①X68～X80、Y5～Y24部分(西から) ②壇立柱建物群(西から)  
③・④X50～X54部分土層(東から)

⑤SB03P3 断ち割り ⑥記録作業



図版3 検出遺構(3)

①SD02(南から)

②SA03(北から)

④・⑤X110～X155、Y10～Y16部分(南から)

③X90～X108、Y0～Y4部分(北から)

⑥X115～X130、Y8～Y15部分(北から)

⑦SA02(北から)



図版4 検出遺構(4)

①X115～X155、Y10～Y16部分(北から)  
 ③SA01、SD01(東から)  
 ⑥X145～X148、Y30～Y60部分(東から)

②X145～X148、Y30～Y60部分(西から)  
 ④・⑤・⑦SD01遺物出土状況  
 ⑧空撮状況  
 ⑨作業状況



5



6



18



16



17



22



21

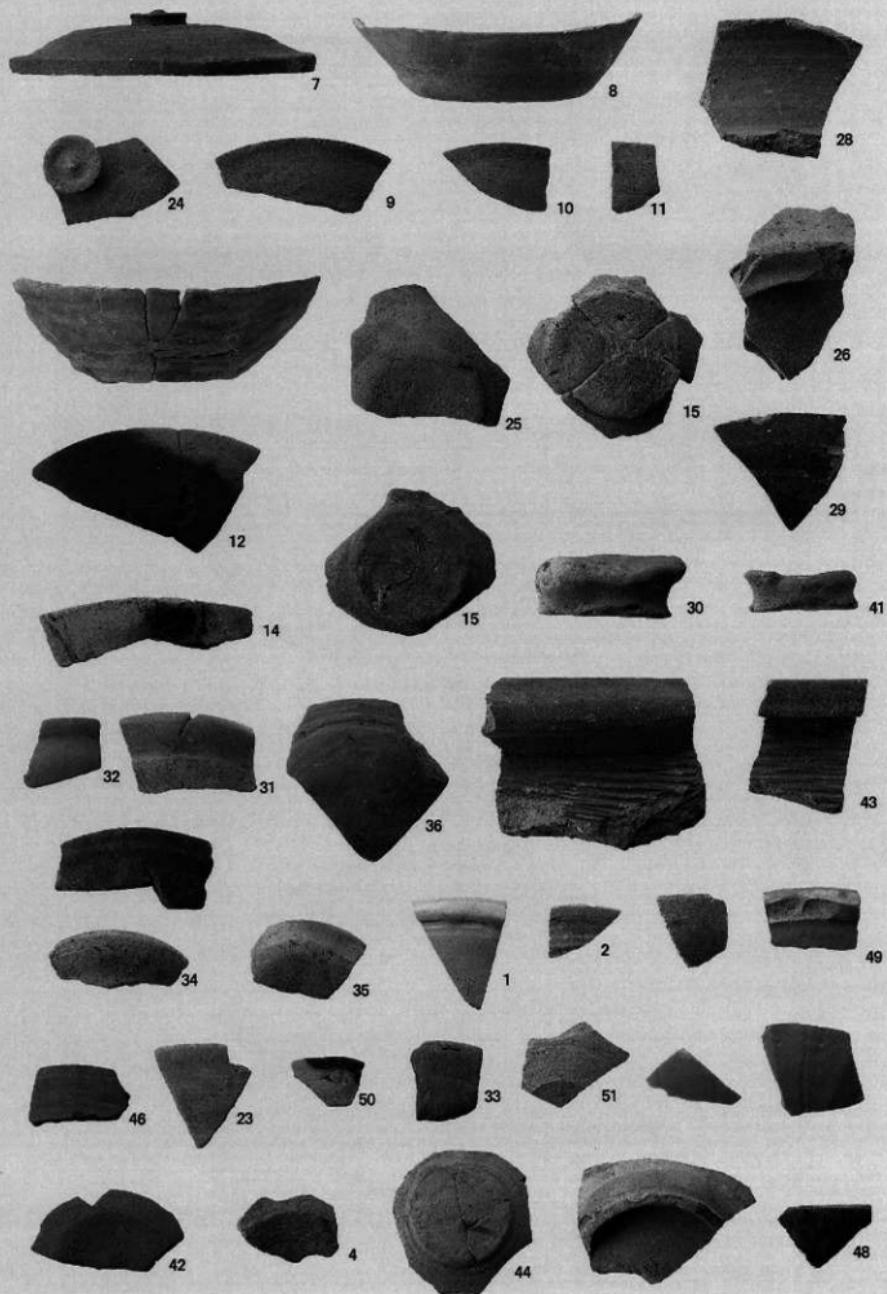


19



20

図版5 德成Ⅱ遺跡の遺物(1) (S=1:2)



図版6 德成II遺跡の遺物(2) (S=1:2)

## 報告書抄録

| ふりがな          | とやまけんふくみつまち とくなりにいせき さん                       |              |             |                   |                |                              |                        |              |
|---------------|---|--------------|-------------|-------------------|----------------|------------------------------|------------------------|--------------|
| 書名            | 富山県福光町 德成II遺跡 III                             |              |             |                   |                |                              |                        |              |
| 編著者名          | 佐藤聖子  |              |             |                   |                |                              |                        |              |
| 編集期間          | 福光町教育委員会                                      |              |             |                   |                |                              |                        |              |
| 所在地           | 〒939-1692 富山県西砺波郡福光町荒木1550 TEL (0763) 52-1111 |              |             |                   |                |                              |                        |              |
| 発行年月日         | 西暦2003年3月12日                                  |              |             |                   |                |                              |                        |              |
| ふりがな<br>所取遺跡名 | ふりがな<br>所在地                                   | コード          |             | 北緯<br>°・'・"       | 東經<br>°・'・"    | 調査期間                         | 調査面積<br>m <sup>2</sup> | 調査原因         |
| とくなり<br>徳成 II | 富山県<br>福光町徳成                                  | 市町村<br>16421 | 遺跡番号<br>274 | 36度32分<br>31秒     | 136度54分<br>53秒 | 020612<br>～<br>020820        | 1,515m <sup>2</sup>    | 県営ほ場<br>整備事業 |
| 所取遺跡名         | 種別  | 主な時代         |             | 主な遺構              |                | 主な遺物                         | 特記事項                   |              |
| 徳成 II         | 集落  | 古代、中世、近世     |             | 掘立柱建物、土坑<br>溝、ピット |                | 須恵器、土師器<br>中世土師器、珠洲<br>白磁、青磁 |                        |              |

県営ほ場整備事業（担い手育成型）北山田南部地区  
に伴う埋蔵文化財包藏地の発掘調査報告(3)

### 富山県福光町 德成II遺跡III

平成15年3月

編集 福光町教育委員会

発行 福光町教育委員会

印刷 倍ナカダ印刷

